

1. 略歴

1992年4月	東京都立大学人文学部 入学
1996年3月	東京都立大学人文学部 卒業
1996年4月	東京都立大学大学院人文科学研究科国文学専攻 修士課程 入学
1998年3月	東京都立大学大学院人文科学研究科国文学専攻 修士課程 修了
1998年4月	東京都立大学大学院人文科学研究科国文学専攻 博士課程 入学
1999年3月	東京都立大学大学院人文科学研究科国文学専攻 博士課程 退学
2005年4月	東北大学大学院文学研究科言語科学専攻国語学専攻分野 博士課程後期 入学（社会人枠）
2008年3月	東北大学大学院文学研究科言語科学専攻国語学専攻分野 博士課程後期 修了 博士（文学）（東北大学）
1999年4月	東京都立大学人文学部 助手（2005年4月、公立大学法人首都大学東京に改組）
2007年4月	広島大学大学院教育学研究科国語文化教育学講座 講師
2009年4月	広島大学大学院教育学研究科国語文化教育学講座 准教授
2020年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本語学、方言学

b 研究課題

日本語方言の記述的研究、対照研究、言語地理学的研究を専門領域とする。記述的研究における主な対象方言は、富山県方言、山梨県奈良田方言、島根県隠岐・出雲方言であり、これらの方言に関しては音韻・語彙・文法・談話構造にわたる総合的な記述を行っている。日琉方言全般を対象とする対照研究、言語地理学的研究においては、文法、特に格、主題、終助詞、命令・禁止表現、談話標識をテーマとする調査・研究を行う。また、こうした研究を支える基礎領域・関連領域として、言語アーカイブや言語ドキュメンテーション、日本の地域言語・方言をめぐる社会言語学的研究に携わっている。

c 概要と自己評価

2020～2021年度は、コロナ禍により臨地調査ができないことから、ビデオ通信によるオンラインでの調査を試行しながら研究を行った。記述的研究・対照研究の主な成果として下記主要業績の著書、論文2編、研究報告書を刊行した。それらの基礎資料となる、言語アーカイブ、言語ドキュメンテーションの成果として下記主要業績のデータベースを公開した。また、コロナ禍における方言調査・方言研究を支援したり、その経過を記録する活動を行った。主要業績の解説、予稿・会議録の各1編がそれにあたる。臨地調査に制限がある中で可能な研究を行った。

d 主要業績

(1) 著書

木部暢子、竹内史郎、下地理則（編）、『日本語の格表現』、くろしお出版、2022.3（分担執筆、「富山市方言における格成分のゼロ標示：二重対格相当構文が可能になることに着目して」93-110頁）
セリック・ケナン、木部暢子、五十嵐陽介、青井隼人、大島一（編）、『日本の消滅危機言語・方言の文法記述』国立国語研究所言語変異研究領域、2022.3（分担執筆、「山梨県早川町奈良田」〔三樹陽介、吉田雅子と共著〕77-150頁、「島根県雲南市木次町」〔平子達也と共著〕151-213頁）

(2) 論文

小西いずみ、「終助詞が表す意味とはどのようなものか：終助詞の方言間対照から見えてくること」、『日本語文法』、20巻2号、23-39頁、2020.9
小西いずみ、「方言の島」山梨県奈良田の言語状況、『文化交流研究』、34、87-94頁、2021.3

(3) 解説

小西いずみ、「コロナ禍のもとでの方言研究：遠隔調査の実践と学生の研究経過の記録」、『方言の研究』、7、37-55頁、2021.7

(4) 研究報告書

方言文法研究会 (編)『全国方言文法辞典資料集 (7) 活用体系 (5)』科学研究費報告書 (編集・分担執筆、「基本例文 50 要地方言訳：山梨県南巨摩郡早川町奈良田方言」75-78 頁)

(5) 予稿・会議録

国内会議、小西いずみ、三樹陽介、吉田雅子、「山梨県奈良田方言の格・情報構造：属格ノ・ガの用法を中心に」、国立国語研究所 研究発表会「格・情報構造 (本土諸方言)」、オンライン、2020.6.14

国内会議、小西いずみ、「富山県朝日町笹川方言の人称代名詞：総合的な形態の主格に着目して」、国立国語研究所シンポジウム「係り結びと格の通方言的・通時的研究」、オンライン、2020.9.20

国内会議、小西いずみ、「感動詞の運用：ナラティブにおける富山方言のナン類」、日本日本方言研究会第 111 回研究発表会、シンポジウム「感動詞の世界」、オンライン、2020.10.23

国内会議、小西いずみ、「方言の終助詞の対照研究：平叙文専用の形式を中心に」、国立国語研究所シンポジウム「日本語文法研究のフロンティア：日本の言語・方言の対照研究を中心に」、オンライン、2021.3.21

国内会議、小西いずみ、「コロナ禍における日琉方言研究の支援活動」、東京外国語大学アジア・アフリカ研究所ワールドサイエンス・コロキウム 2021 年度第 2 回、オンライン、2022.3.18

(6) データベース

小西いずみ、足立研二、大島英之、高城隆一、田中智章、中鉢絢貴、中澤光平、「日琉方言の命令・禁止表現：調査票とデータ集」DOI: 10.5281/zenodo.6379988

方言文法研究会、「基本例文 50 要地方言訳データベース」

<https://sites.google.com/view/hogenbunpo/home/%E5%9F%BA%E6%9C%AC%E4%BE%8B%E6%96%8750%E8%A6%81%E5%9C%B0%E6%96%B9%E8%A8%80%E8%A8%B3>

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、広島大学、「言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン発展研究 (国語)」、2020.10～2021.3

非常勤講師、東北大学、「日本語学各論」「日本語学特論I」、2020.10～2021.3

非常勤講師、慶應大学、「日本語学III」「日本語学IV」、2021.4～2022.3

非常勤講師、聖心女子大学、「日本語学研究III」「日本語学研究IV」、2021.4～2022.3

(2) 学会

国内、日本語学会、編集委員会委員、2020.4～2021.5

国内、日本語文法学会、大会委員、2020.4～2022.3

国内、社会言語科学会、理事・事務局長、2021.4～2022.3

国内、日本言語学会、編集委員会委員、2021.4～2022.3

国内、日本方言研究会、世話人・編集委員会委員、2021.6～2022.3

(3) 行政

国内、日本学術会議、連携会員、2020.10～2022.3